令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果

＊問合先　学務課学校教育係（㉘番窓口／☎26-2332）



小学６年生と中学３年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が行われましたので、その概要などをお知らせします。

３年に一度中学校で実施される英語は、平均正答率ではなく、問題の難易度などを個別に分析し学力を推定するIRTスコアで結果が示されています。

＊調査の概要

●**実施日**　４月23日㈭
※中学校英語は４月20日・22日、５月８日・11日

●**対象学年・人数**
- 小学６年生　学力調査　103人／質問調査　107人
- 中学３年生　学力調査　80人／質問調査　81人

●**調査の内容**
- **教科に関する調査**　小学校…国語、算数
  中学校…国語、数学、英語
- **質問調査**　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する調査

＊教科に関する調査の結果（平均正答率・IRTスコア）

▼小学６年生

	国語	算数
全　国	60.9%	56.4%
北海道	60.0%	54.0%
深川市	55.0%	54.0%



小学校の国語の平均正答率は、全国に比べ5.9ポイント、北海道に比べ５ポイント下回りました。算数は全国に比べ2.4ポイント下回りましたが、北海道と同程度でした。

▼中学３年生

	国語	数学	英語（IRT）
全　国	63.9%	57.0%	499
北海道	63.0%	55.0%	490
深川市	68.0%	57.0%	494

中学校の国語の平均正答率は、全国に比べ4.1ポイント、北海道に比べ５ポイント上回りました。数学は全国と同程度で、北海道に比べ２ポイント上回りました。英語は全国に比べ５ポイント下回りましたが、北海道に比べ４ポイント上回りました。

＊質問調査の結果（主な内容）



基本的な生活習慣である「毎日同じ時間に起床している」と答えた小学生は88.7％で全国平均を2.0ポイント下回りましたが、中学生は93.8％で全国平均を1.4ポイント上回りました。「毎日同じ時間に就寝している」小学生の割合は81.3％で全国平均を1.5ポイント下回りましたが、中学生は83.9％で全国平均を3.4ポイント上回りました。

【表1】
学校の授業以外で平日に1時間以上学習すると答えた割合

	小学６年生	中学３年生
全　国	49.9%	61.6%
北海道	46.0%	52.8%
深川市	28.9%	43.2%

【表1】の「学校の授業以外で平日に1日当たり1時間以上学習する」と答えた小学生の割合は、全国平均を21.0ポイント、中学生は18.4ポイント下回りました。「学校の授業以外で平日30分以上読書をする」と答えた小学生の割合は19.6％で、全国平均を6.5ポイント下回りましたが、中学生は18.4％で、全国平均を0.4ポイント上回りました。

【表2】
スマートフォンなどでSNSや動画の視聴を２時間以上すると答えた割合

	小学６年生	中学３年生
全　国	57.6%	74.9%
北海道	63.3%	79.0%
深川市	66.3%	86.4%

【表2】の「スマートフォンなどでSNSや動画の視聴を２時間以上する」と答えた小学生の割合は、全国平均を8.7ポイント、中学生は11.5ポイント上回りました。



【表3】
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができると答えた割合

	小学６年生	中学３年生
全　国	85.7%	87.0%
北海道	87.5%	88.0%
深川市	86.0%	92.6%

【表3】の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と答えた小学生の割合は、全国平均を0.3ポイント、中学生は5.6ポイント上回りました。また、「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている」と答えた小学生の割合は76.6％で全国平均を4.9ポイント下回りましたが、中学生は88.9％で4.4ポイント上回りました。



＊今後の対応

教育委員会として、今回の結果からこれまでの各学校の状況や課題を明確にした上で、学力向上を図るため毎年作成している「深川市学校改善プラン」を見直し、今後の改善策について各学校や家庭、地域と連携した取り組みを進めます。

各学校では、各種テストなどの結果を分析するほか、授業や生徒指導を含めた総合的な「学校改善プラン」の改定に取り組み、学校全体での改善に努めます。

質問調査では、【表1】の平日の家庭学習などの時間が全国平均を大きく下回っている点、小学生については平日の読書の時間が全国平均を下回っている点が本市の課題となります。【表2】の結果から、家庭学習や読書の時間が不足する原因として、SNSや動画の視聴時間が全国平均を大きく上回っていることが影響していると考えられ、小学校入学前からの対策を今後も継続していきます。

基本的な生活習慣や家庭学習・読書習慣・長時間にわたるスマートフォンの利用は、学力向上にも深く関連しますので、引き続き学校・家庭・地域の連携を深め、児童・生徒の健やかな育成を目指して取り組んでいきます。